

自由南アフリカの声

Voice of Free South Africa

2005年2月
No.37

発行 / アジア・アフリカと共に歩む会

Published by Together with Africa and Asia Association (TAAA)

2005年2月の報告と予定

- 10月 南ア・デボンの MEI へ本3909冊送る
- 11月 イナンダ移動図書館を訪問
- 11~12月 南アで移動図書館プロジェクト答申書作成・教育大臣に上程
- 12月 南ア・デボンへ移動図書館車が到着
- 12月 KZN 州の教育センター5箇所を訪問
- 1月 TAAA 活動報告会
- 2月 野田市より移動図書館車を受領
- 2月 南ア教育大臣が来日、TAAA と会見
- 2月 TAAA の活動が NHK 総合テレビで報道される

目次	移動図書館プロジェクトと本の寄贈について……………	P 1
	国内ボランティア募集……………	P 5
	HIV/AIDS ピア学校教育……………	P 6
	図書館車が南アフリカ教育省の国家プロジェクトに…………	P 7
	移動図書館車引取り記……………	P 8
	主な活動……………	P 9
	寄付・会費・本などを下さった方々……………	P 10



本が来たよー

移動図書館プロジェクトと本の寄贈について

TAAA 南ア連絡員

平林 薫

TAAAは、南アフリカの9州の内、3州(ハウテン州、クフズールーナタール(KZN)州、西ケープ州)の教育省とNGOに15台の移動図書館車を寄贈してきた。今回は私が現在住んでいるダーバンのあるKZN州の移動図書館プロジェクトの現状と今後の見通しについて記したいと思う。

KZN州教育省の図書情報技術サービス部であるELITSは、これまでにTAAAより3台の移動図書館バスを譲り受け、プロジェクトを行っている。1台はウルンディにおいて15校を巡回している。2台目は、北部バズワナ地区の州教育省の新しい教育センターをベースに40校を回り、3台目は、ダーバン近郊のタウンシップ(黒人居住区)である、イナンダの17校を巡回している。

イナンダのプロジェクトは、昨年8月に始まった。州政府の車として登録するのに時間がかかってしまった。各省庁が公用車として使用する車を運輸省に申請し、登録しなければならない。多数の申請があるため時間がかかってしまう。今後、バスの輸入から登録までの手続きがスムーズに行なわれるよう、各省庁に直接話をして、協力を要請したいと考えている。

イナンダはダーバンから20キロ北西にある元のタウンシップ(黒人居住区)である。アパルトヘイトが終わり、人々は居住の自由を得たが、ほとんどの人はそのままタウンシップに住んでいる。タウンシップ内の基本的な設備に関しては、少しずつですが改善されてきている。それでもイナンダの奥に入ると、未舗装の道路も多く、水道も引かれていない。民主化10年とはいえ、多くの人にとってこの10年はあまり変わっていないというのが現実である。

マンドシ小学校とエンゴンウェニ小中学校へ本の返却のための訪問をした。マンドシ小学校では382名が学んでいます。校長や教員たちは大変積極的で、様々な団体に支援の要請をしている。今必要としているのは、教員室。基本的な設備がないまま毎日の指導を行なう教員たちの苦労は大きい。この日は、移動図書館バス巡回サービスへのお礼にと生徒達が歌や劇などを披露してくれた。生徒の代表から、ELITSとTAAAに生徒達が制作した粘土細工の鳥が手渡され、TAAAからは算数セットをプレゼントした。教員たちは算数セットを囲み大騒ぎ。“各クラスに一つ欲しい”と頼まれた。算数セットは好評なので、イナンダ巡回バスに載せて貸し出しをしたいと考えている。3月末に埼玉県南浦和小学校が集めてくださることになっている。

2校目のエンゴンウェニ学校は120名の小さな学校だ。校長はアート&カルチャーの教育に力を

入れており、伝統的なダンスやコーラスで賞を受けている。ここでは素晴らしい歌声を聞き、また移動図書館から借りた本のストーリーを劇にして生徒達が演じてくれた。ズルー人はもともと想像力に富んだ芸術的才能を持っており、本がその能力を一層伸ばすための力になると実感した。

クワズルーナタール(KZN)州は、10年前の民主化以来、IFP(インカタ自由党)というズルー族のチーフを支持者に持つ政党が第一党だった。ANC(アフリカ民族会議)主導の国側の動きに反する州政府であったため、国側と軋轢があり、州内のANC支持者の多い地域の開発やサービス提供を意図的に遅らせたり、怠ったりという状態が続いていた。今年4月の総選挙で初めて南アの全州でANCが勝利し、KZN 州内も体制が大きく変わってきている。州知事がANCになり、各省庁のトップも入れ替わった。州都がウルンディからピーターマリッツバーグへ移り、役人達の時間と交通費の無駄遣いが軽減された。地方や一部の地域におけるサービス提供を急速に進めている。

KZN 州には6037の公立校があり、その中で1300校はトイレなどの衛生設備が整っていない。766校では水道設備がなく、275校では電気がない。108校で木の下などの屋外で授業が行なわれている。校舎の状態も悪く、14600の教室が不足している。教育省の大半の予算はより基本的な部分に使われてしまい、各校に図書室設置というのは夢のような話だ。そこで、教育省は各地域に教育センターを設置し、周辺の学校および地域へのサービスを提供するシステムを導入した。新しいセンターには図書室、会議室、コンピューター室、実験室などを完備し、州教育省の新しいカリキュラムに則った情報、サービスを提供する。センターは、教師達の能力開発とサポート、学校の経営管理と開発の支援と、地域の学校が情報を分かち合う場となっている。

教育センター設立委員会のメンバーでもあるELITSのダイレクター、ンジマンデ女史は、教育センターのサービスの中に移動図書館車プロジェクトを組み込む方針を固めた。これまでに完成した5つの教育センターのうち、バズワナではすでにバスが配置され、4月から本格的に稼動する。残る4ヶ所にTAAAからのバスの寄贈を依頼されており、今回、元ソニーサウスアフリカの社長で、TAAAの力強いサポーターである蓮沼忠氏と共にセンターの視察をしてきた。



何を借りようか探す教員たち



本の返却に並ぶ子どもたち

マサクソロ教育センターを訪ねた。リッチモンドにある MASAKHUXOLO (LET'S MAKE PEACE)という名のこのセンターは、その名の通り、平和を祈願して建てられた。もともとANC支持者が多い地域だった。民主化後もANCとIFPの抗争が激しく、一時は軍隊が出動する場面もあった所だが、今は町の建て直しが行なわれている。センターは周辺の約40校へのサービスを行っており、スペースとセキュリティーについても、移動図書館車を受け入れる体制が整っている。

ハイフラッツにあるブンガセ教育センターはペンキの匂いの残る新しい建物だ。何より驚いたのは、すでに移動図書館車の車庫が作られていたことだ。教育省の地域担当責任者は、真っ先にこの車庫を見せてくれて、すぐにもバスが欲しい、と訴えた。ここもリッチモンド同様、ANCサポーターが多いことから、州内で最も改善が遅れている地域だ。近くには教員センターなどが全くないため、このセンターが270校をカバーしている。

次は北部のバズワナ教育センターだ。砂地の未舗装道路を運転した蓮沼氏は後で“かなり緊張しながら走った”と言われていた。昨年訪問した折、すでに移動図書館車の運行準備も進んでいたのだが、車の登録などの手続きに時間がかかり、最近やっとプロジェクトが開始された。5校を巡回して、どの学校も待ちに待ったバスの訪問を大歓迎だったそうだ。センター長は、地元の教師出身で、この地域をよく知り、人々の教育のために熱心に活動している人物だ。センターの図書室は、近くに図書館のない地域の人々から、利用したいという強い要望があるようだ。このセンターは約500校をカバーしているが、移動図書館車は40校への巡回を予定している。

モザンビーク国境近くのマンガジ教育センターを翌日、訪れた。まだ出来たてでセンター長がいがないため、教育省地域マネージャーのミセス・ングバネがテンポラリーでセンターを管理している。地域の人々のために熱心に活動しているフランスカルクバイク牧師がミーティングに参加。このセンターは周辺の80校へのサービスを行なっている。建物が完成し、電話が引かれたところで、他のセンターと同様、図書室、会議室、コンピューター室、実験室が揃っている。駐車場から図書室へ直接入れる通路とドアがあり、これも移動図書館車の活動を考えて建設されたようだ。近くに公共の図書館があり、人々が活発に利用しているとのことで、将来的に協力してプロジェクトを行なえれば、という話も出た。

ドラケンスバーグの山麓のベルグビルにある、ウカランバ教育センターへは蓮沼氏がダーバンからジョハネスバーグへの帰途に訪問。蓮沼氏の報告によると、このセンターは周辺の116校をカバーしており、設備は他の4箇所と同じで、バスの受け入れ体制は十分整っている。図書室にはELITSからの本が到着しており、棚も揃い、スタッフが在庫の整理とPCに入力をしてきたとのことである。

ELITS は、すでにこの5箇所の教育センターに最低2人ー図書館司書、およびドライバーのための予算を確保しており、もしバスの寄贈が決ったら、すぐにスタッフを雇用して、様々な手続の

間にトレーニングをすることになっている。

移動図書館が国のレベルに

蓮沼氏は中央の教育省の図書担当官マセコ氏と、KZNのELITSダイレクターのンジマンデ女史、ハウテン州図書部門ダイレクターのドラミニ女史と移動図書館車プロジェクトのチームを結成し、教育大臣への答申書を作成した。すでに答申書は教育省ルビシ次官補に提出されており、今年からは移動図書館車プロジェクトが国レベルでの動きになっていこうとしている。そのために、日本のTAAAも、これまでより多くの移動図書館車寄贈の準備に動き出している。私も蓮沼氏と共に現地でこれまで以上に動いていきたいと思っている。

8 月中旬にELETに到着したTAAAから寄贈の本は、少しずつ各地の学校に配布している。以前 ELET のワークショップに参加した州内各地域の教員たちがネットワークを作っており、その代表者が小型トラックで引取りに来て各学校に配布している。また、サーフィンを子供達に教える活動をしている、サウスコーストのウムズンベの学校に寄贈もしている。イナラ小学校では、新学期が始まったら図書イベントを開催するとのことで、ぜひ参加したいと思っている。

また、埼玉県国際交流協会を通して風の子クラブからいただいた運動靴は、HIV/AIDSピア教育プロジェクトに参加しているズバネ小学校に寄贈してきた。学校はドウエドウエの奥地にあり、でこぼこ道を上ったり下ったりしながらやっとたどり着いた。学校巡回指導員のノトレさんも、何度来ても迷ってしまう、と言っていた。146名の小さな学校で、ほとんどの子供に靴が手渡された。子供達はびかびかの運動靴に目を丸くして、最初は“これ本当にもらっているの？”という困惑した表情をしていた。そのうち紐を結んで校庭を思い切り走り回っていた。校長は、“この地域は産業もなく、人々の生活は苦しいため、ほとんどの子供達にとって、初めての新しい靴です”と言っていた。ウムズンベのサーフィンクラブのイベントにおいても子供達に靴を渡したが、タイミングよくクリスマスプレゼントとなった。

国内のボランティア募集

TAAA の活動は日曜日やフリーにお時間を使って下さる人の力で成り立っています。一日に数時間という人も、月に数時間、数ヶ月に数時間という人もいます。Web 上での貢献をしてくれる人もいます。10代から20代・60代・と男女も同じくらいです。①車でインターナショナルスクールへ本を取りに行く②日曜日などに本の梱包作業やミーティングに参加する③会報や案内をワードで作成する④南ア現地の団体と英語で連絡し合う⑤移動図書館車を工場に搬入する⑥寄付金集めの活動を行なう⑦会計事務を行なう(特に⑦は緊急に募集しています)。(助成金のことで諸機関にウィークデイに出向くことも年に数回あります)①～⑦のどれか一つでも関われる方は大歓迎です。場所は JR 埼京線「南与野」(新宿から30分)です。ご連絡をお待ちしています。

JICA委託プロジェクト

HIV/AIDS ピア学校教育

南ア連絡員 平林薫

今期の学校訪問の目的は、保健クラブの設立の進行状況を確認することだった。プロジェクト担当の教師およびピア教師(生徒のリーダー)との話し合いが行なわれた。保健クラブの設立の重要性、誰が担当するか、運営の方法についての資料を渡した。数校ではすでにクラブが設立され、他の学校でも設立準備の段階に入っていた。

全校生徒に保健クラブとはどういうもので、なぜ必要であるか、誰が参加し、どのように運営されるのかについて話をする時間を設けた。グレード5, 6, 7のピア教師達には難しいため、教師のサポートが必要であり、かなりの時間がかかった学校もあったようだ。ピア教師達は自分達でミーティングを開催することや、議事進行、議事録のつけ方なども学んだ。自信を持って自分の意見を伝えることも学んだ。教師とピア教師は、学校と病院や学校担当の看護師などとのつながりを深めながら、地域の人々にも保健クラブの運営に参加してくれるよう呼びかけている。

学校巡回指導員(当プロジェクトを実施する現地 NGO の専門家)は、クラブのメンバーにクラブの運営の仕方をアドバイスし、教師とピア教師は保健クラブ設立の重要性を全校生徒に訴えた。いくつかの学校ではすでにクラブを設立し活動を始めている。エイズウェアネスキャンペーンや学校の敷地内やトイレをきれいにする活動、学校菜園プロジェクトなども行なわれている。HIV/AIDS インフ



ELETの代表オグル氏と平林(右)

ォメーションセンターを教室内や図書室に設けている学校もあり、パンフレットや生徒が書いたエッセイ、エイズサポートのリボンなどが置かれている。HIV/AIDS サポートグループを結成した学校では、この病気に関連する様々な問題に直面している生徒達を支援する体制を作った。

このプロジェクトは生徒達の HIV/AIDS に対する態度を変えてきている。この問題を否定したり、口をつぐんだり、ふざけたりせず、オープンに話し合うようになってきた。エッセイやポスターを書き、HIV/AIDS への意識をもつよう努力がなされている。エイズウェアネスキャンペーンを開催した学校では、地域の人々にも影響を与え始めており、全校でイベントを開催したいと計画している。ピア教師達は学校担当の看護師を交えキャンペーンを行なうことによって、州保健省ともつながりを作り始めている。(2004. 12)



大半の生徒は昼食なし。校門で物売りを見ている。

図書館車が南アフリカ教育省の国家プロジェクトに

蓮沼 忠

アパルトヘイト後、新政府は義務教育の普及を政策の柱の一つとし努力を重ね最近では入学率が85～95% (州によりばらつきあるが)まで向上し、量的改善は著しく達成された。しかし、小学校の8割に図書館が無いなど 今後は教育の質的向上が課題になる。地方、都市のセトルメントは貧困ゆえ、親が子供に本を買い与えられず、また先生等も幼少時に図書に親しむ事がなかったため、相変わらず教科書の暗記中心の授業を続けているので子供たちの学科理解力に問題を生じている。これが白人と黒人の格差が存続し続ける最大の原因でもあると言われている。

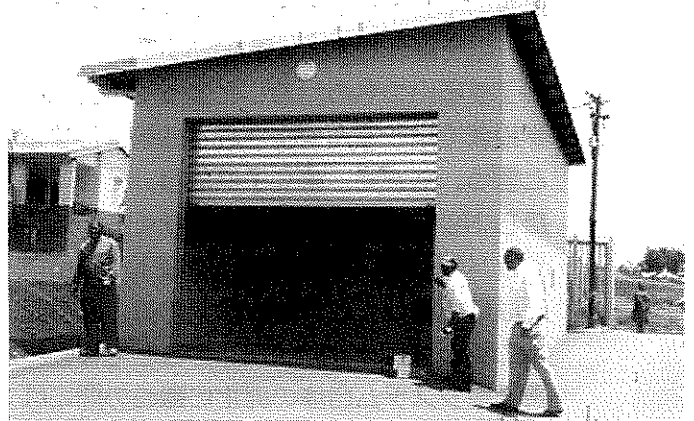
こういう状況下、TAAAが送った15台(12台が稼働中)の図書館車の活躍の結果、南アフリカで図書館車の有効性が認識され 教育大臣より図書館車の教育への活用につき、答申書作成をもとめられ、昨年8月、教育省識字普及課長、ハウテンおよびクワズールナタール両州の図書館部長および小生とでプロジェクトチームを結成した。12月、答申書が完成し 直ちに教育省の内部審査のあと大臣に上程され好評を受けた。主なる内容は、今後3年間で30台の図書館車が日本から送られ、南ア側はそれを効果的に運営する体制、人員、予算を用意することになっている。

2月6日～9日の間 教育国際会議に出席のため 来日中のパンドール南ア教育大臣とルビシ次官補(図書館車プロジェクト担当)はTAAAに謝意を表するため、7日野田さんと会談したが、その模様は2月14日早朝7時30分のNHK“おはよう日本”で放送される。

南アはアパルトヘイトの頃、世界中からNG

O支援の資金が送られ、NGOが多くの活動を行い成果をあげたが、新政府誕生後その仕事は政府に引き継がれることになった。しかし必ずしもスムーズに移管したとは言いがたく、TAAAが送った車の数台は運行開始に至るまでかなりの月日を要したのであった。スムーズ化のためには行政を巻き込むことが必須である。南アの行政の体制はプレトリアの各省が行政の基本方針を出し、各州政府がそれを実施するので、今後は各州政府との折衝に現地でも微力ながら注力したいと思う。

日本での図書館車集め、本集めに 皆様のご支援をお願いする次第です。



ガレージの準備もできている (ハイフラッツにて)

南ア直輸入健康茶ルイボステイ
1パックをヤカンに入れて煮立て、夏場は冷やしてお召し上がりください。売上の一部は活動費になります。

ルイボステイ(1箱80パック)

5箱で1万円(税送料込)

4箱以下→1箱2000円(税込み・送料500円)

ハガキ、ファックス、e-mailで、名前、住所、電話番号をお知らせください。

野田市 移動図書館車引取り記

浅見 克則

弱々しい冬の陽が木枯らしに負けそうになる2月の風の強い日、折から南アから帰国中の蓮沼さんを誘って北爪さんと私との3人で大宮駅の雑踏で落ち合い、ローカルな色合いの東武野田線で千葉県野田市愛宕駅を目指す。鉄橋高架から遠く雪の日光連山、ひときわスッキリ雪の男体山。見慣れぬ車窓からの景色に3人のオジサンは盛り上がる。

愛宕駅から徒歩10分、近代建築の野田市興風図書館着。地域のコミュニティセンターを兼ねているとのことで15万冊の蔵書を誇る。早速、担当の小沢さんと温厚な館長の木村さんと面会し段取りの打ち合わせ。鍵を貰って『じゃ気を付けて』・・・で終了するいつもの引渡しと違って今日は小学校まで車を運んで引き渡し式を挙行するという。式次第、車や子供たち、そして私たちNGOの配置図まで事細かく定めたシユメが用意してあった。脱帽！野田市では年々厳しくなる財政状況の折、図書館車の更新は行えない状況とのことで移動図書館車システム自体の廃止に職員の間には一抹の寂しさが漂う。

車庫に向かう。BM車庫と書かれた鉄の扉を押し開けると綺麗に洗車してもらったそよかぜ号が明るい蛍光灯の元で再婚先の使者の口上を待つ2度目の花嫁と言った風情でひっそりと出番を待っていた。仁義を

切って乗らせていただく。プリヒーターを2秒ばかりかけてスターターオン。一発で吹き上がる。よく手入れされているようだ。中も細部まで掃除されていて担当者の思い入れが伝わってくる。

件の小学校までの先導役の一人の館員が磨き上げられたボディを優しく撫で、最後にポンポンと二つ叩いて吹っ切るように歩いていく姿を私は見てしまった。『お前がいなくなると寂くなるな～、アフリカでも頑張れよ！』と私には聞こえた。小学校には20名くらいの児童が待機していた。小沢さんの司会で式は進行。今まで図書館車が運んでいた本を学校に寄贈する式典、それに対する子供たちの返礼。紹介された子供たちの作文は図書館車を心待ちにする素直な表現で私は年甲斐も無く感動してしまった。館長がNGO代表としての私にキーと書類一式を譲渡して式はクライマックス。最後に私が小学生に向かって車をアフリカまで確実に届ける事を約束して終了。新聞数社、市の広報、図書館員そして小学生の地味ながら温かい見送りを受けてクラクションの音を引いて野田市を後にした。



そよ風号と蓮沼（左）と北爪

◆主な活動(2004年9月18日～2005年1月19日) 下線は南アにおける活動

9/19 倉庫建設 浅見克則
 9/19 打ち合せ会議 野田千香子 関根章博
9/20 北西州プロジェクト進展問合わせ 蓮沼
 9/20 会報36号編集 野田
 9/25 セントメリーおよびクリスチャンアカデミー
 インターナショナルスクールから本引取り
 浅見 北爪健一 関根 野田 西村裕子
 西村義行
 9/26 作業と会議 西村 浅見 下谷房道 安
 部弥生 関根 野田
9/27 南アより日本へ一時帰国出発 蓮沼忠
 9/27 南ア大使館ヘリテッジデイ記念 野田
9/28～30 ELETにて会議(JICA) 平林薫
 10/2 国際協力フェスティバル(日比谷公園)に
 参加 野田 安部
 10/5 住所ラベル準備 西村
10/7 ELETにて会議と本引取り 平林
 10/13 駐日南ア大使と会見(リンゲラ氏同席)
 蓮沼 野田
 10/15 移動図書館製作会社(株)林田製作所を訪
 問、工場見学 蓮沼 北爪
 10/17 移動図書館プロジェクト会議 蓮沼
 浅見 関根 西村 近藤信幸 武藤豊 野田
 10/18 コニセフ・エリートJIA勤務の菊川穰さん来
 訪、懇談 野田 村泉巨竹
 10/19 会報36号発送作業 井出利栄
10/23 南アヨハネスバーグへ戻る 蓮沼
 10/24 梱包作業と会議 浅見 関根 西村
 野田 島田勝 下谷
 10/24 ホームページ更新 大久保忠人
10/25 在南ア日本大使館事務官に挨拶 蓮沼
 10/27 本90箱3909冊をMEIへ出荷
 10/27 移動図書館車がMEIへ向け出港
 10/27 ホームページ管理移行 近藤
11/3 南ア教育省教育企画課長マセコ氏と移動
 図書館答申書作成の打ち合せ 蓮沼
 11/4 八潮市へ移動図書館視察 浅見 北爪
11/5 KZN州教育相ELITSにて会議 平林
 11/7 埼玉国際フェアに参加 浅見 西村 下
 谷 近藤 関根 野田 武藤 深野正己
11/8 ウムズンバの小学校に本を寄贈 平林
11/8 理数教育シンポジウムに参加 蓮沼

11/9 イナンダ移動図書館訪問 平林
11/10 ンボウドゥエの小学校へ靴を寄贈 平林
11/12 ELETにて会議 平林
11/11～12/2 マセコ氏と答申書作成 蓮沼
 11/8 JICA 国際センター会議 野田 安部
 11/14 梱包作業と会議 浅見 西村 下谷
 日名徹一 野田
11/19 JICAの専門家宮下氏とELETの農業プロジ
 エクト訪問 平林
 11/20 図書館データベース作成 北爪
11/26 在南ア大使館山下氏とELET 農業プロジ
 エクト訪問 平林
 11/30 移動図書館データベース作成 安部
 12/4 図書館へのアンケート作成 西村
12/5 車でダーバンへ出発 蓮沼
12/6～8 クフズールーナタール州教師支援セン
 ター数箇所を視察 蓮沼 平林
 12/6 (株)商船三井の副会長北條氏と会見(福原
 秀夫氏と) 野田
12/9 ルビシ次官補へ答申書を提出(教育省事務
 官定例会議を経て、教育大臣へ上程) 蓮沼
12/11 KZN教育省トップと会議 蓮沼 平林
12/11 ペルグビル教師支援センターを訪問 三
 ハネスブルグへ戻る 蓮沼
 12/11 JVC 津山直子さん帰国報告会 野田
 12/12 アンケート印刷送付 安部 西村 野田
12/13～14 ELETにて会議(JICA) 平林
12/15 ELETにてクリスマスパーティ 平林
12/13 移動図書館車がMEIに到着、確認 蓮沼
12/15 毎日新聞南ア駐在員白戸氏と懇談 蓮沼
12/20 ELETにて会議 平林
12/21 弁護士とNPO法人設立の話 蓮沼
 12/26 作業と会議と忘年会 西村 下谷 北爪
 関根 浅見 野田
12/26 日本へ一時帰国 平林
 1/9 TAAA 活動報告会(埼玉県労働会館にて)
 1/18 駐日南ア大使館にてリンゲラ氏と会見
 平林 野田
1/18 事務次官たちと答申書と今後の業務関連
 についての打ち合せ会議 蓮沼
 1/19 南ア連絡員平林薫、南アへ戻る